ユーゴ労組代表迎え――

交流で平和を誓う

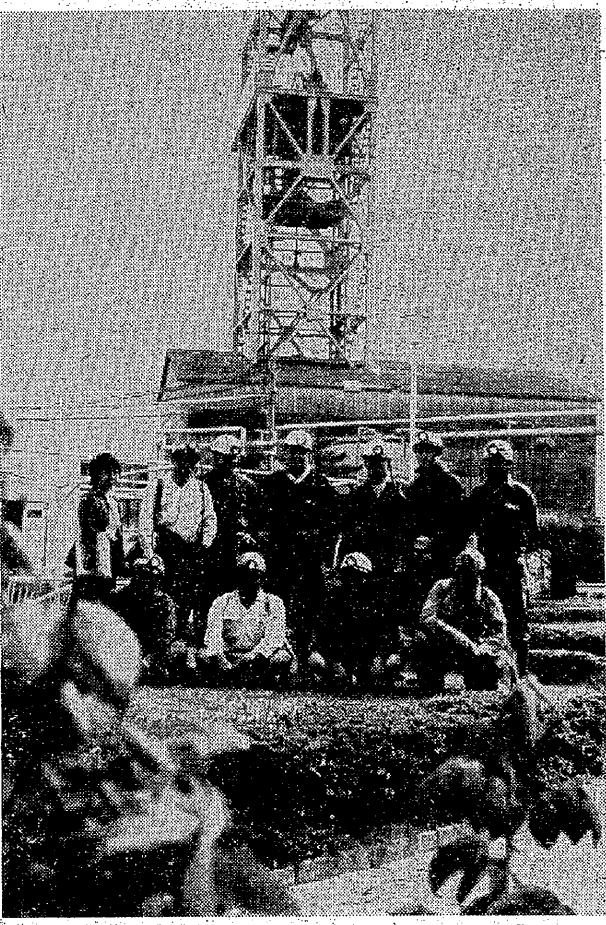
このほどユーゴスラビヤ連邦人民共和国の鉱工業労働組合の代表団が、炭労と合化労連の招きにより、第一回目の交流のため来日、交流を深めた。（写真は四山鉱での記念撮影）

来日したユーゴースラビヤ連邦人民共和国の鉱工業労組の代表団は、この三日から五日まで大牟田に滞在。三池労組や三井東圧化学関係労組と交流、連帯を深めた。

代表団は、ラーデ・ガレブ団長（鉱工労組連合委員会議長）のほか三人の人びとだった。（別項記事参照のこと）

今ユーゴーの人口は二千万人。第二次世界大戦後社会主義革命を勝ち取り、チトー大統領の指導のもとで「積極中立」「非同盟主義」を旗じるしにした外交、小売業、手工業、農業などの面では個人経営（但し、人を雇うことは五人までに限定）を認める、という独自の社会主義国建設の大事業をすすめてきている。

特にあらゆる企業における労働者の自主管理（企業役員の選挙、生産目標、労働条件、年金など福祉施策の推進）を基本にした運営が、建設の大きな基盤になっている。



ユーゴーの炭鉱労働者は六万人。年間出炭高一千万トン。

地下採炭の炭鉱は六鉱で、ほかは露天掘を中心とした採掘。

石炭は質が悪く、二千カロリーくらいだといい、ほとんどが電力用炭として使われている。原料炭は輸入しているとのこと。

このような厳しい条件のなかでさえ炭鉱労働者の社会的地位は高く、金属鉱業と並んでユーゴーでは三指に入る豊かな待遇をめぐまれている。

三池訪問では、四山鉱の坑内見学が交流計画に組まれていたため労働者同志顔をつき合わせる時間が少く、これまでの三池の闘いについても組合長や書記長のあいさつのなかでかろうじて触れる程度で終ってしまった。その点代表団として、残念さが大きく残っていた様子だった。

ガレブ団長は、三池の労働者へとして、そのあいさつのなかで次のように述べた。

「炭鉱における労働はどこでも厳しく、苦しいものである。しかし労働者の団結と不屈な精神で闘い抜かれるよう、心からお願いする。平和を守るために労働者の国際的な連帯の輪がますます強められ、広がってゆくように、お互いに努力を重ねてゆきましょう」

なお、聞けば団長は第二次世界大戦中、バルチザン活動に参加。祖国ユーゴー解放のために、ナチス・ドイツ侵略軍と身をもって戦った闘士だとのことだった。

代表団の人々

来組したユーゴスラビヤ鉱工業労働組合代表団は、次の人びとだった。

団長＝ラーデ・ガレブさん
ユーゴ連邦鉱工業労組委員会議長
団員＝スレチコ・ムリナリッチさん
スロベニア共和国金属工業労組委員会書記長
〃＝スココ・ハルブオージュさん
グロシア繊維労組委員長
通訳＝シロン・ヤマザキ・ブケリッチさん

三池大災害十四周年抗議集会での

組合長の〝決意表明〟

さきの三池大災害十四周年抗議集会で、組合と主婦会を代表し、古賀組合長が今後の闘いにのぞむうえの決意を表明しました。次はその全文です。

三池大災害十四周年を迎え、総評・炭労をはじめ、総評弁護団、福岡・熊本両県評、大牟田・荒尾両地評、日本社会党、日本共産党、また両社青同、守る会、まなぶ会のみなさん、そのほか多くの民主団体の代表のみなさんのご参加を得て、有意義な抗議集会を開くことができましたことを、主催者を代表して厚くお礼申し上げます。

三池大災害から十四年。私達は多くの方々のご理解とご協力を得て、遺族や被災者の補償を求め、災害責任追及の闘いを進めてきました。

しかし三井の態度はきびしく、政府権力や悪徳大学教授・医者をかかえこみ、被災者を虫ケラのように扱い、大災害について反省するどころか、私達のCO闘争を抹殺しようとたくらむなど、悪らつ極りない弾圧のまえに、闘争は容易なものではありませんでした。

また大災害にかかる責任追及と損害賠償を求めた裁判でも、三井の極悪非道の態度が如実に現われています。災害直後の検察庁の取り調べに対し、三井の幹部は口を揃えて、「労働者が揚炭ベルトコンベヤーにダイナマイトを仕掛けて爆発させたのだ」と供述していました。しかし、裁判がはじまるとこんどは、「揚炭ベルトコンベヤーの上の原炭に含まれた炭じんが舞い上がって爆発したのだ」、と主張し、法廷でやっきにごまかしの立証をしています。

真実は一つです。会社の保安サボによる炭じん爆発以外のなにものでもありません。

大災害当時、会社は再び災害は起こさないことを霊前に誓ったはずなのに、今なお災害はあとをたたず、多くの労働者の命を奪い、傷つけています。

今、私達を取り巻く情勢は資本主義においては、貿易戦争の激化による体制的合理化が遂行され、消費者物価は上昇し、失業問題が政治的危機を生み出しています。

一方社会主義諸国では賃上げが実施され、相互協力により生活水準は向上し、新しい経済政策は着実に、福祉の向上をめざし前進しています。

また国内では、保守福田内閣の大資本本位の反動政策により、近年にない企業倒産、工場閉鎖が増大し、首切り合理化、福祉の切り捨てなど、勤労国民の生活危機は極めて深刻なものとなり、また企業の生産第一主義による安全無視の合理化の結果、労働災害、職業病、公害はあとをたたない状況にあります。

私達はこの集会を契機に「労働者は命までも売ってはいない。抵抗なくして安全なし、安全なくして労働なし」、ということを再確認し、反合理化、反独占を基調に、幅広く諸国民との連帯を強化するなかで、頑強な三井に対する被災者の完全治療、前収補償、解雇制限、遺族補償などの要求貫徹と、大災害裁判闘争の勝利にむけて頑張っていきます。CO闘争および裁判闘争を勝利することはひいては労働者の命と健康を守り労災法の抜本的改正と、生活と権利を確立する道でもある、と確信します。

最後に、これからさらに厚いご指導とご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げ、決意の言葉と致します。（写真は組合長、主婦会長とともに決意表明）

がんばれ〝あおぞら〟

職新活動の再生期そう

これまで長く活躍してきた三川指導部十分会新聞〝あおぞら〟が、この八日発行された五十五号をもって終刊になるという。これは、こんどの宮浦鉱の三川鉱への統合が呼び起こした波紋の一つで、同紙によれば宮浦鉱から迎えた仲間とともに、新しい団結によって、別の角度からさらに発展させてゆく決意だとのこと。

次は同紙の「〝あおぞら〟最終号に想う」、という記事である。

×

三川・宮浦統合により、わが十分会の新聞〝あおぞら〟は、今回をもって最終号となりました。

月一回の発行を目標に、幾多の困難とぶつかりながらも編集員諸氏の努力と分会員各位の協力により、つつがなく五十五号まで発行されましたことを、分会全員で賛え、喜び合いたいと思います。

編集活動の経過の中には、編集員の負担の片寄りをなくし、全体的な投稿を求めるため、いろいろ工夫を重ねてきました。しかしやはり、うまく行きませんでした。がこの事は、職場新聞を続ける限り問題点として、努力を続けなければならないと思います。

十分会新聞としての〝あおぞら〟は今回で終りますが、その名は今後十六分会に受けつがれます。

私達は今までの経験を生かし、そして職場の問題をとりあげ、論議を呼び起こし、そして〝あおぞら〟を労働者の闘いの武器としてさらに発展させてゆきましょう。

×

今三池労組の職場新聞活動は、大きく後退している。一大奮起が求められているときだけに、再生〝あおぞら〟の今後に寄せられる期待は大きい。がんばれ〝あおぞら〟。

「三池と共に闘う」

寄せられた激電52通

こんどの抗議集会に対して、全国各地のあらゆる民主団体・組織それに個人から五十二通にのぼる激電が寄せられた。団体や組織、個人は次の通りである。感謝の思いをこめ、紹介させていただく。

炭労北海道地方本部
日本炭鉱主婦会協議会関係
大阪府総評
東京都高教組三池CO守る会
国会議員（多賀谷真稔、細谷治嘉、坂本恭一＝以上衆議院議員。小野明、阿具根登、小柳勇、松本英一＝以上参議院議員。いずれも社会党）
社会主義協会＝向坂逸郎
まなぶ友の会関係
日本社会主義青年同盟関係
右同全国協議会大牟田支部
関東不知火会
ほか個人数人
（右は順序不同で敬称を省略させていただきました）

×

寄せられた電文のなかから二、三拾って紹介しよう。

「三池労組の組合員の皆さん、主婦会員の皆さん、大災害の犠牲者を守る皆さんの不屈の闘いは、皆さんがうち立てた『労働者は命まで売っていない』という闘争指標とともに、今全国の活動家たちによって広がり、強められつつあります。われわれも働く者の勝利をめざし、三池とともにあくまで闘い抜く決意でいます」（社会主義協会＝向坂逸郎）

「三池大災害十四周年抗議集会に対し、心から連帯のあいさつを贈ります。闘いなくして働く者の命と権利を守ることはできません。よりいっそう学び、反合理化の闘いを強化するためにともにがんばりましょう」（まなぶ友の会和歌山県協議会）

「十四年前三井独占の犠牲となられた三池の仲間に追悼の意を表し、今なお一酸化炭素中毒に悩まされている患者、家族に心からお見舞い申し上げます。私たちの仲間の多くは頸腕症や腰痛で苦しんでいますが、職場でのきびしい合理化攻撃に立ち向かい、命と権利を守る闘いを三池の仲間とともに闘います」（社青同鳥栖支部）

ほかは省略するが、激電はいずれも三池労組とともに闘ってゆくことを誓うものとなっている。

退職の人びと

こんど次の方が定年のために退職されました。長いことご苦労さまでしたが、これからはかくべつ健康にご留意いただき、これまで以上にご活躍のほどを心からお祈りいたします。ともにがんばりましょう。

宮浦指導部関係

荒木正刀さん

退職の日　十一月九日。
お住まい　大牟田市新勝立町三丁目紅葉ケ丘社宅。